2 La-12

特別養護老人ホームにおける冬季の温熱環境調査

○高橋啓子*)　　五十嵐由利子**)
(*愛知江南短大　　**新潟大学)

目的　高齢社会に対応すべく特別養護老人ホームの設置が全国で進められてきている。身体的にも生理的にも衰えた複数の高齢者が同室に居住していることが多いことから、入居者に負荷を与えない温熱環境を整えておくことが望まれる。本研究は、気候条件の異なる愛知県と新潟県の特別養護老人ホームを対象に冬季の温熱環境の実態測定を行い、現状の把握と改善点についての検討を加えることを目的とした。

方法　愛知県2施設、新潟県4施設を対象に1995年の冬季より実態測定を行ってきた。測定箇所は方角の異なる居室数室、廊下、外気とし、小型温湿度記録装置を用いた。

結果　1）対象施設のうち新潟の3施設が床暖房を採用していたが、他はファンコイルユニット（天井カセット型）による暖房であった。また、新潟の2施設には空調機器に組み込まれた加湿設備があり、他の2施設には居室に小型の超音波式加湿器が置かれていた。2）日平均温度は、愛知の施設でやや低い傾向が、また、新潟の施設で高い傾向（22℃以上）が見られた。3）ファンコイルユニットによる暖房の居室ではどの施設でも垂直温度の差が大きく、床暖房は少なかった。また、暖房方法の違いによる設定温度の違いは見られなかった。4）加湿設備のある施設の相対湿度は設備のない施設の値より高い傾向にはあったが、全般的に相対湿度が低く、測定期間中30％以上にならない施設や居室があった。5）施設職員へのアンケート結果から、職員が居室の乾燥状態を気にしていることが分かり、湿度環境の改善が課題と考える。

なお、本研究の一部は文部省科学研究費補助金（基盤研究（c））によって行われた。